

■ 令和7年度 市民協働事業評価シート(市記入分)

No.

1

事業名	外国人を支えるやさしいまち		
団体名	NPO法人こまえにほんごしえん・日本語スクール	担当課	政策室
事業目的	狛江市在住の日本語に不慣れな外国にルーツをもつ児童・生徒と保護者、及び外国人居住者の日本語学習のサポート、及び日常生活・学校生活に関わる事柄についてサポートすることを目的とする。		
事業内容 (計画内容)	①市関係部署及び、関係団体連絡会の開催 1) 政策室・指導室・学校教育課・市民課・公民館・福祉相談課(こまメール)・子ども発達支援課 等 2) 社会福祉協議会(こまえくぼ1234)・日本語教室・国際交流協会 他 ②広報の強化 ・多文化キッズサロンの周知と、市内相談窓口一覧を掲載したチラシの作成・配布(転入時に外国人世帯へ配布) ※転入世帯への周知方法相談・検討 ※各校教員への周知 ③日本語学習サポート(サロンの実施・放課後支援) ・月3回 土曜日 西河原公民館他にてサロン開催 ・オンラインレッスン導入 ※放課後支援の取組み(拠点学校相談・検討) ・外国人住民の相談窓口設置(相談支援) ④公開講座・勉強会の開催(支援者の育成) ⑤やさしい日本語翻訳(学校等からの配布物のやさしい日本語への翻訳) ⑥支援者募集(活動の周知と支援者募集⇒外国語通訳ボランティア登録者へ働きかけ(マッチング)等)		
事業目標	転入手続き等から外国人住民と繋がり、日本語に不慣れな児童、生徒、保護者の支援に繋げたい。団体を知る機会を増やし、利用に繋げる。 外国人児童・生徒と保護者の日本語学習をサポートし、外国人にやさしいまちづくりを進める。		
役割分担	団体：事業の企画・運営、人材育成 市：予算と活動場所の確保・広報		

■ 事業の成果

事業評価	事業の計画段階	■協働して事業計画を作るにあたりお互いに共有できたこと、改善が必要と思われること (共有できたこと) 支援が必要な児童・生徒が市内小中学校に存在しているが、団体や団体の活動を知らない住民や学校関係者が大多数である。転入等の機会に、団体を周知していく必要がある。	
		(課題) 転入時にチラシを配布したとしても、アクセスしてくる外国人は少数であるため、こちら側(市又は団体)からアクセスする必要がある。	
	事業実施段階	■情報共有を図りながら互いの強みや得意分野を活かし実施できたか。	
		(情報共有や役割分担など協力できた点) 市から学校に対し、日本語の支援が必要な児童生徒が各校にどのくらいいるのかについての調査を実施。	
	事業終了段階	(課題や改善が必要な点) 各学校で日本語の支援が必要ととらえている(把握できている)件数が少なく、支援に繋げる働きかけが弱いと感じる。	
		(協働事業を実施した結果) 支援が必要な生徒の人数を多く回答した中学校へ外向き、団体の活動を紹介。支援が必要な生徒を支援できるよう、放課後支援の導入に繋げた。 (計画に対する事業効果) 市内の他団体との情報共有や課題の共有の機会を持ち、市役所の各窓口への協力依頼等の話し合いの機会を持つことができた。 各学校にも活動を周知し、話し合いながら、必要があれば利用に繋げる方法についても検討できた。	
協働による成果	事業実施者満足度	学校の理解と団体の努力があり、中学校への支援の導入に繋げることができた。市内の他団体との情報共有の機会を持つこともでき、お互いに協力体制を築いていけると感じている。	
協働による成果	相乗効果の有無	有	事業実施場所の確保等を市が担うことで、スムーズに事業を実施できる。また、支援が必要な状況を団体と情報共有し、協力して素早く支援に繋げることができる。
	協働事業での課題	引き続き、教育委員会への活動の周知を進めると共に、海外ルーツの児童、生徒、保護者への認知度も高め、支援者の獲得も行っていく。	
総合評価		A 期待された結果を得られた 関係機関との情報共有の機会や市役所窓口との連絡会の開催で課題の共有や、協力体制の構築ができた。各学校への更なる情報提供を進めると共に、支援に協力いただける協力者(支援者)の獲得を進めていく必要がある。	

■令和7年度 市民協働事業評価シート(団体記入分)

No.	1
-----	---

事業名	外国人を支えるやさしいまち		
団体名	NPO法人こまえにほんごえん・日本語スクール	担当課	政策室
事業目的	狛江市在住の日本語に不慣れな外国人にルーツをもつ児童・生徒と保護者、及び外国人居住者の日本語学習のサポート、及び日常生活・学校生活に関わる事柄についてサポートすることを目的とする。		
事業内容 (計画内容)	①市関係部署及び、関係団体連絡会の開催 1) 政策室・指導室・学校教育課・市民課・公民館・福祉相談課（こまメール）・子ども発達支援課 等 2) 社会福祉協議会（こまえくぼ1234）・日本語教室・国際交流協会 他 ②広報の強化 ・多文化キッズサロンの周知と、市内相談窓口一覧を掲載したチラシの作成・配布（転入時に外国人世帯へ配布） ※転入世帯への周知方法相談・検討 ※各校教員への周知 ③日本語学習サポート（サロンの実施・放課後支援） ・月3回 土曜日 西河原公民館他にてサロン開催 ・オンラインレッスン導入 ※放課後支援の取組み（拠点学校相談・検討） ・外国人住民の相談窓口設置（相談支援） ④公開講座・勉強会の開催（支援者の育成） ⑤やさしい日本語翻訳（学校等からの配布物のやさしい日本語への翻訳） ⑥支援者募集（活動の周知と支援者募集⇒外国語通訳ボランティア登録者へ働きかけ（マッチング）等）		
事業目標	転入手続き等から外国人住民と繋がり、日本語に不慣れな児童、生徒、保護者の支援に繋げたい。団体を知る機会を増やし、利用に繋げる。 外国人児童・生徒と保護者の日本語学習をサポートし、外国人にやさしいまちづくりを進める。		
役割分担	団体:事業の企画・活動の周知・人材育成 市:予算と活動場所の確保・活動の周知等広報		

■事業の成果

事業評価	事業の計画段階	■協働して事業計画を作るにあたりお互いに共有できたこと、改善が必要と思われること （共有できたこと） 市内の関連機関との情報共有の必要性	
	事業実施段階	（課題） 市内在住外国人の情報把握と支援ニーズの掘り起こし	
	事業終了段階	■情報共有を図りながら互いの強みや得意分野を活かし実施できたか。 （情報共有や役割分担など協力できた点） 外国ルーツ住民に関わる機関担当者連絡者会議を2回開催し、それぞれの抱える課題や協力方法について議論した。役割についても各機関可能な範囲で分担することができた。 （課題や改善が必要な点） 共通目的をもった関係機関が継続的に情報共有の場をもち、昨今の外国人を取り巻く状況に応じた支援体制を築いていくこと。	
協働による成果	事業実施者満足度	（協働事業を実施した結果） 関連機関との連携によって外国人児童の状況が把握できるようになり、適切な支援計画の設計ができるようになった。 （計画に対する事業効果） 中学生に特化した新たな放課後支援の場を作ることができた。また学校と連携し、支援児童の生活サポートといった面まで踏み込むことができた。 HP経由の問い合わせや、行政機関からの問い合わせも増加し、団体の活動が周知され始めている。	
	相乗効果の有無	有	適切な予算によって充実した活動を展開することができ、また団体のみでは解決が困難なケースでも担当課の協力によって、円滑に事業が実施できた。
協働による成果	協働事業での課題	支援者の確保と、様々な状況の外国人に対応できる支援スキルの充実。 継続的な周知活動。 関連機関とのより具体的な協力体制の構築。	
総合評価		B 概ね期待どおりに進んだ	
		関連機関との情報共有に加え、都や他地域の外国人支援団体とのつながりができ、団体の存在を知ってもらえたことは成果として大きい。今後団体の活動をさらに包括的なものにしていくために、支援者のスキルアップを含めより多様な支援の在り方について考えていきたい。	

にほんごサロン 利用者アンケート

聞き取り対象

- ・成人女性 来日8年くらい、家族:夫と子供3人、日本語能力:日常会話ではそれほど支障はない。
- ・成人女性 来日8年、家族:夫、子供1人、日本語能力:言葉遣いやスピードに注意して話さないと理解が難しい。
- ・高校生 以前学校で日本語支援のメンバーから日本語指導を受けていた。来日時は全く話せず、学習意欲も低め、気力も少なめに見えた。今は会話に問題なく、活発に学校生活を楽しんでいる。
- ・中学生 来日時は日本語のあいさつ程度だったが、今は会話、学校での学習にあまり問題は見られない。

にほんごしえんに来たきっかけや通い始めてからの変化

- ・来日直後は全く話せなかったが、学習を継続することで話せるようになってありがたい。特に子供のサポートが助かった。
- ・夜の教室に通うのは無理だったので、土曜の午後にあるのは助かる。
- ・にほんごしえんで初めて勉強をした。それまではネパール人の友人や職場のネパール人と話すか、買い物で少し日本語を話すくらいで孤独だった。
- ・日本語を少し話せるようになったので、今は日本人だけいる職場で働くことができている。
- ・にほんごしえんで、自分以外に日本語を勉強する仲間とあえてよかった。同じ問題を抱えている人がいることを知り、安心した。
- ・(支援者から見て学力的には問題ないように見えるが)日本語で、日本人の友人に劣っていると思っており、もっと勉強したい。

困ったときどうしているか

- ・病院での日本語は難しいので、具合が悪くても行かない。
- ・マイナンバーの申請に行ったが、言葉が難しすぎてよくわからなかった。窓口の人が丁寧すぎるので、簡単な日本語で話してほしい。
- ・学校の書類は、親が理解できないので、子供の自分が訳して伝えている。
- ・母国の友達に助けてもらっている。
- ・上記のようなときに相談できる窓口が欲しい。